

《 監査委員事務局 平成28年度予算見積方針 》

部内マネジメント責任者

局長 村井 治夫

予算見積にあたっての基本的な考え方および重点事項

【施策全体の方向性、基本的な考え方】

市民の目線による公平不偏の立場から、市が執行する事務事業が法令等に準拠し、適正かつ効率的に行われているか、また、経営に係る事業が合理的かつ効率的に行われているかどうかを主眼としつつ、透明性の高い行政運営の確立に向け、「法令遵守」、「住民の福祉の増進」、「最小の経費で最大の効果」、「組織および経営の合理化」を主眼に定期監査、財政援助団体等に対する監査や決算審査等を実施します。

【重点事項】

公正で合理的かつ能率的な市行政運営確保のため、法令遵守はもとより、経済性・効率性・有効性に重点を置いた監査等を実施します。

【見 積】平成28年度 当初予算額(一般会計)

所 属	予算額(千円)		平成28年度予算の特徴
	歳出総額 (職員費を除く)	一般財源	
監査委員事務局	3,945	3,945	平成28年度については、新規事業はありません。 現在、国でも監査機能の充実や、監査委員等の専門性を高める方策、監査委員事務局の充実についても議論されています。全国都市監査委員会でも、平成27年8月に「都市監査基準」が定められ、平成28年度中に「品質管理」の方針や手続の策定が地方自治体に求められるなど、監査を取り巻く環境は大きな変革期を迎えています。それらに対応するためにも、臨時職員を配置して事務局の体制を強化しながら、研修等を充実して、より専門的な知識・技術等を習得して、監査機能の充実・強化を図る必要があります。
合 計	3,945	3,945	

【前年度】平成27年度 当初予算額(一般会計)

所 属	予算額(千円)		
	歳出総額 (職員費を除く)	一般財源	
監査委員事務局	1,882	1,882	
合 計	1,882	1,882	

【増 減】(【見 積】-【前年度】)

所 属	予算額(千円)		予算額の主な増減理由
	歳出総額 (職員費を除く)	一般財源	
監査委員事務局	2,063	2,063	臨時職員の配置に伴う人件費等が増加しています。 研修等を充実するため、参加負担金や研修への旅費が増額しています。 追録図書を廃止し、その経費を研修費用へ充当するなど、専門的な知識・技術の取得方法をより実践的な方法へと見直しを図っています。
	0	0	
	0	0	
	0	0	
	0	0	
	0	0	
合 計	2,063	2,063	

主要な事業(新規・拡大・重点事業等) (一般会計および特別会計)

事業名	事業費(千円)	一般財源	事業概要
該当なし			

枠配分額(当該経費に係る予算見積上限額)に対する見積状況

所 属	一般行政経費(千円)			扶助費(千円)			枠配分額を超過した場合、その理由
	A 枠配分額	B 見積額	A-B ▲は枠超過	A 枠配分額	B 見積額	A-B ▲は枠超過	
監査委員事務局	1,328	1,328	0			0	該当なし
			0			0	
			0			0	
			0			0	
			0			0	
			0			0	
			0			0	
合 計	1,328	1,328	0	0	0	0	

マネジメントの視点による財源配分、事務事業の見直し等の考え方について

全体として新規事業はないものの、国等の動きからも監査自体が大きな変革期を迎えていて、今まで以上に監査機能の専門化、高度化に対応する必要があります。そのために、臨時職員を配置したり、専門的な知識・技術等を取得するための研修等を増加したりしながら、監査委員を含めた監査委員事務局の強化を図っていきます。また、経費等の節減に努めながらも、各所属への監査執行時には、事務事業の効果の視点を重視して、適切で効果的な予算執行となるよう努めたいと考えています。